

- 現在までに不適切処理事案の当面の対処は概ね実施してきたが、統計改革には道半ばの分野もあり、また、近年普及してきている生成AI等のデジタル技術も今後活用していくことが重要。
- 改定するプランにおいては、以下の5つの重点分野を提示し、それらの推進に際しての前提として、以下の2つを明記。

- 統計の不適切処理事案を風化させず、国土交通省に共通する教訓として継承
- 問題の発見や解決に必要な情報が関係者間で迅速に共有される組織風土や行動様式を形成していくことが不可欠

継続的に取り組むべき根幹的事項

- 事案の風化防止の取組
【具体的な取組例】 国土交通省統計改革推進会議や各種研修等において、統計の不適切処理事案の振り返りを行い、再発防止を徹底
- 問題発見と解決を奨励する組織風土づくり
【具体的な取組例】 担当職員が幹部職員に気軽に相談し、議論できる環境をつくるなど、部局内のコミュニケーションを充実させ、風通しの良い職場環境づくりに努める(継続)

1 統計DXの推進(※)

- 統計作成プロセスの一連のデジタル化を推進
- 生成AIを活用した統計プロセスの効率的な活用方を検討
【具体的な取組例】
 - ・ 統計調査別のデジタル化率の整理 (R7年度から現状把握等に着手)
 - ・ AIを活用した疑義照会の検討 など (R7年度からAIを活用できる統計プロセスを特定し、その後試行開始)

2 既存情報の活用(※)

- 利用可能な既存情報を的確に把握・整理し、その活用方を検討
- 中長期的には、統計調査における調査項目の段階的な縮減を目指す
【具体的な取組例】
 - ・ 初段階として省内の現状を把握、整理 (R7年度から現状の把握に着手)
 - ・ 利用可能な既存情報を考慮した調査項目の縮減

3 統計人材の育成、統計リテラシーの向上

- 統計人材の育成や統計リテラシー向上のための研修等の受講を促進
【具体的な取組例】
 - ・ 国土交通省職員向けの独自の研修プログラムを作成 (R7年度に研修プログラムを検討し、R8年度から試行を実施)

4 オンライン回答率の向上

- 好事例の導入によるオンライン回答率の向上を推進
【具体的な取組例】
 - ・ 3年後までを目途に、全体で平均7割以上のオンライン回答率を目指す。

5 業務マニュアルの改善

- 各統計調査の内容を踏まえつつ、質の面も考慮して段階的に改善
【具体的な取組例】
 - ・ 定期的に各業務マニュアルの記載状況を把握 (R8年度までに、全統計調査における統計法の手続き等といった重要事項の記載を目指す)
 - ・ 有用な記載例等の共有と導入の促進 (R8年度以降実施)

※ 建設受注統計については、不適切処理事案への当面の対処を概ね実施したが、次の段階として、その根幹である標本設計のあり方等が時代に即しているかの観点から、統計品質改善会議において論点を整理しつつ検討を行い、併せて、建設施工統計の見直しもを行い、両統計の基本的な方向性をR8年度までに整理。